

学校法人 青山学院  
2007 年度事業計画書

学校法人 青山学院

## 2007 年度事業計画

学校法人青山学院は、21 世紀の青山学院のあるべき姿、進むべき道を明らかにするために、2006 年 11 月、青山学院教育方針とスクール・モットーを基盤としたアカデミック・グランドデザインを策定いたしました。

2007 年度は、このアカデミック・グランドデザインに基づいた「教育研究の再創造と変革」並びに「青山キャンパス再開発」への第一歩を踏み出す大切な年となります。

キリスト教信仰に基づく建学の精神を堅持し、133 年に及ぶ歴史と伝統を継承しつつ、21 世紀に相応しい魅力と特色のある総合学園の確立を目指して策定した 2007 年度の事業計画を、青山学院は、スピード感をもって、着実に進めてまいります。

### 【学院の重点項目】

#### 1. 青山キャンパス再開発の取り組み

大学 A 棟（仮称）新築（総工費 30 億円）

高等部校舎改築（総工費 60 億円）

「21 世紀の青山学院 - Re-creation and Transformation -

～ 伝統の中での新生、青山学院の新たな出発 ～」

と題して策定したアカデミック・グランドデザインを基に、青山キャンパス再開発の最優先事項として、高等部校舎の改築と、順次校舎を建て替える際の受け皿とするための校舎及び新設学部の教室・研究室確保のための大学校舎の新築が、2006 年 11 月に開催された「臨時評議員会」及び「理事会」で承認されました。

2007 年度は、この二つの最優先事項について、「いながらの建て替え」という困難な状況をクリアしていくための綿密な計画を踏まえた上で、実際に校舎の建築に着手し、完成を目指していきます。また同時に、最優先事項である二つの校舎建築は、青山キャンパス再開発という大きな視点からみれば、その取り組みの緒についたに過ぎないことを深く認識し、安全性、経済性、持続性、緊急性を考慮し、青山キャンパスのハードのマスタープランを策定していきます。

#### 2. 「青山学院 EVERGREEN 21 募金」の取り組み強化（目標額 10 億円）

2007 年度中には 4 年目を迎える募金事業は、目標金額の達成に向け募金事業の一層の充実を図っていきますが、そのためには、取引企業への寄付要請の強化と、個人・団体に対して募金事業の更なる理解と支援を得るための方策の確立が課題となっています。これらの課題に対する具体策として、2007 年度は下記の四つを重点項目として対応していきます。

募金事業に関する広報・宣伝活動の充実

企業・法人等への寄付要請の強化

寄付収入の増大を図るためのイベントの企画と実施

卒業生等への寄付要請のため、校友会との連携を強化

募金事業の広報・宣伝活動については、学院 Web の募金事務局のコンテンツを最優先に充実させていきます。企業・法人等への寄付要請の強化については、学院の取引企業先への寄付要請の強化のほか、本学卒業生の就職先企業・法人等への広報活動と寄付要請のための渉外活動を、また寄付収入の増大を図るためのイベントとしては、芸能界で活躍中の校友によるコンサートや、募金事業に理解を寄せていただいた著名人による音楽とトークを交えたコンサートの開催等を、企画・実現していきます。

### 3. 大学の new 学部・ new 学科の設置

2008 年 4 月に予定されている二つの new 学部並びに経済学部の新設学科の設置に向け、準備を進めていきます。

#### 1) 総合文化政策学部

人文学と政策科学の融合による文化芸術の創造と世界への発信をプロデュースする人材の育成

人文社会科学の学識知見に基づき、21 世紀における文化社会、マスメディアのデザインに従事する人材の育成

文化芸術についての深い造詣を有し、都市文化、国際文化交流に貢献する人材の育成

芸術的センスをもって企業活動に従事する人材の育成

上記四点を学部コンセプトとして掲げ、青山にキャンパスを持つという本学ならではの、地の利を生かしたカリキュラムを展開します。普遍性を重視した政策科学の基礎分野と多様な文化理解に益する学科目を配置し、対象領域の理論と実践と政策をバランスよく学び、フィールドワークや実習をマネジメントする青山コミュニティ・ラボを併設する等、今までにない特色をもった学部です。

#### 2) 社会情報学部

青山学院は、「人の育成」をミッションとしてきました。社会情報学部は、この原点を踏まえることによって、数多くある情報系学部との差別化を図ります。

情報の理論的基盤を習得しつつ、社会や組織についての基礎的理解を有することによって、社会や組織のさまざまな問題を発見し、その解決のためのシステム設計を行うことで、人間社会に貢献する企業人、組織人を育成し養成する。この学部コンセプトのとおり、高い理想の下に、基盤的知識と技術、そして応用領域を横断し、フィードバックさせるような知的実践を可能にする人材の養成、これが社会情報学部の最大の特徴です。

#### 3) 経済学部現代経済デザイン学科

現代経済デザイン学科は、疲弊した現代社会の諸状況に対し、「公共」の価値観をもって「地域」という足場から実践的にアプローチすることで、“Warm Heart and Cool Head”という経済学の理念を体現した人材を育成することを目標としています。カリキュラムには環境、地域再生、NPO/NGO、教育、福祉、介護、地方自治、PPP/PFI、CSR、地域統合といった現代的テーマをカバーし、制度設計、

政策立案、交渉と契約に特化した構成を持たせ、この学科を卒業した学生が直ちにコミュニティ・リーダーとして活躍できることを目標に作り上げられています。「公共」の価値は青山学院のモットーに通じ、「地域」分析の新しい技術(GIS)教育はわが国の社会科学系大学では本学がいち早く取り組んできたものです。こうした特徴をもつ新学科が、経済学を総合的に学ぶことの出来る経済学科と並び設立されることにより、本学経済学部はよりいっそう社会の多様なニーズに応えることができるようになります。

#### **4. 初等部新築工事・周辺環境の整備**

2003年8月に着工した初等部新築工事は、2004年秋の新高学年棟、2006年3月の新低中学年棟、2007年3月の新礼拝堂の完成に加え、2007年8月に行われる予定の周辺環境の整備をもって、工事を完了します。

2007年度に創立70周年を迎えるにあたり、木のぬくもりと祈りに満ち、同時に最新の設備を備えた21世紀に相応しい教育環境を整備することができたことに心から感謝し、初等部は、更なる教育内容の充実を目指して歩んでまいります。

## 【法人】

### 1．情報セキュリティマネジメントサイクル導入の完遂

青山学院では、情報の安全管理及び危機管理に関し、「実効性の確保」「継続性の確保」「構成員全員の取組 ” No Audience All Players ”」を基本理念にすえ、学院の風土に根付く管理体制の再徹底を目指して、マネジメントサイクルの導入を3ヶ年計画で推進してきました。その最終年度となる2007年度は、以下に掲げる目標に沿って活動計画を立案し、導入を完遂します。

#### [ 2007年度目標 ]

早急に対策を講ずるべき部分が発見された場合には、安全管理対策を実施することを最優先する。

収集した情報資産の管理状況を分析し、結果を取りまとめ、実際と乖離しない実効性のある規定を策定する。

情報の所管箇所を明確かつ最適化する。また、安全管理に必要な業務機能を集約または分化して、適切な再配置により全体への定着を図ることで継続性を確保する。最終的には「人の意識」に帰結することを重視し、さらに正しい認識が浸透するよう、構成員全員を対象として教育・啓蒙活動を行い、日常的な自己点検の実施を促す。

万が一の事故に備え、迅速かつ正確に対応できるよう体制を強化する。

#### [ 主な活動計画 ]

- \* 情報資産管理データベースの構築
- \* 情報リスクアセスメント
- \* 情報セキュリティポリシーの策定と周知徹底
- \* 安全管理対策の実施
- \* トレーニング型研修会の開催
- \* セキュリティレベル維持向上のための管理体制構築

### 2．青山学院知的資産連携機構の活動強化

青山学院の知的資産具現化とマネジメントを充実させるために、2007年度は前年度の活動を継続するとともに、青山学院内外に向けて、次の2点の充実を図ります。

学院内に向けては、昨年度の活動を発展させ、リスクマネジメントの観点からコンプライアンスの重要性を啓発し、青山学院の知的財産の拡充と権利侵害リスクの縮小を図ります。

さらに外部ステークホルダーとの連携強化として、共有知的財産の運用の際、共益とともにリスクを共有して最小化するためのスキームを確立します。

### 3．安全管理の強化

「学校内の安全・安心は、すべての活動の前提である」との認識を学院全体で再確認し、安全管理体制の強化を図ります。そのため、学院全体の施策を調整・統括する部署を新たに設置し、幼稚園から大学・大学院までの各学校で行われている安全管理を支援

するほか、昨年洗い出した学院内の様々なリスクを分析し、重要度、緊急度に応じた、具体的な対策を講じていきます。

その際、大災害対策の見直しを優先的に扱い、幼児から学生、その家族、教職員の安全・安心を確保するとともに、地域の避難場所としての役割を考慮し、学院に課せられた重要な社会的責任を果たすための体制を整備します。

また、建物の安全対策のために次の耐震診断及び補強工事を実施します。

大学5号館耐震補強工事(2億円)

大学記念館耐震診断(578万円)

青学講堂耐震診断(777万円)

#### 4. 一貫制英語教育の教科書作成(1,237万円)

青山学院では、英語教育に関し、初等部・中等部・高等部の12年間、さらには高大連携をも視野に入れた16年間の一貫教育として捉え、独自の教育に取り組んでいます。特に初等部から高等部までの12年間は、児童・生徒の発達段階を考慮して、また、認知心理学的側面からも、規定の学校の枠である6-3-3制とは異なる、第1期(初等部1年生~4年生)、第2期(初等部5年生~中等部2年生)、第3期(中等部3年生~高等部3年生)とする4-4-4制を導入することとし、英語教育研究センターでは、これらの理念を具現化するために、12年一貫のカリキュラム及びシラバスに基づいて、青山学院独自の教科書の開発を進めてきました。

2008年4月からの新教科書の順次導入に向け、2007年度は、第1期1年(初等部1年生)並びに第2期1年(初等部5年生)が使用する教科書の完成と、導入に向けての準備を行います。

## 【大学】

青山学院大学は、建学の理念と使命に基づき、教育研究活動の更なる充実と推進を目指すとともに、スクール・モットーである「地の塩・世の光」を体現し、公正な立場から社会の要請に応え、社会に貢献する人材の育成と教育を目標としています。その実現のため、2007年度の事業計画を下記のとおり策定しました。

### 1．学士課程改革の続行

21世紀に進行する少子高齢化の流れに対応し、大学では教育資源の再配置を通じ、学部教育の競争力強化を目指してきました。2006年4月の国際政治経済学部国際コミュニケーション学科の設立と、2008年4月に予定している二つの学部の新設、並びに経済学部第二部及び経営学部第二部の募集停止と経済学部新設学科設置の見通しの上に、2007年度からは文学部及び理工学部の制度変更を含む改革についても検討を進め、全学部の競争力確保、強化を目指します。

### 2．大学院改革の推進

社会科学系学部改革を進めつつあることから、2007年度は社会科学系を中心に、大学院改革を進めていきます。社会科学系大学院については、学部に基づき置く研究大学院と、専門職大学院が存在しています。また設置形態とは別に、資格取得型の研究科とキャリアアップ型の研究科、学術研究型の研究科では、教育研究の内容がかなり異なります。資格取得型大学院については従前通り支援していくものとし、社会人対応のキャリアアップ型については、各研究科の連携ないし融合を通じ、多様な教育プログラムを提供できる体制を構築し、これと合わせ次世代教育研究者養成の系統的プログラムを整備し、有機的な棲み分けを行っていきます。

また、2008年4月に新設される社会情報学部の上に社会情報学研究科（仮称）を設置し、2007年度に設置されるヒューマン・イノベーション研究センターとも連携して、新たな学びとそのための学習環境デザインや組織革新、及びそのための人材育成を推進する組織を設置する準備を進めます。

### 3．キャンパス政策の確立

就職活動の恒常化と中等教育内容の切り詰めにより、学士課程教育はきわめてタイトな中で教育効果をあげることが求められるようになっていきます。全学年を集中して教育することが、教育環境の改善となり、効果を高めるものであることは言うまでもありません。質の高い教育を集中的に行う上でも、競争力を確保する上でも、人文社会科学系学部については、全教育課程を青山キャンパスに集約することが最も望ましい形です。現在計画されている青山キャンパス再開発の進行に合わせ、人文社会科学系の全学部が教育課程の4年間を同一キャンパスに設置することを最終目標とし、このための中間目標として、1年次を相模原キャンパス、2年次以降の教育課程を青山キャンパスに置くことを目指します。

#### 4．研究支援体制の確立

青山キャンパスにおける研究支援体制として、従来、庶務部庶務課研究協力係が文部科学省の科学研究費その他外部資金等の取り扱いを担当してきました。2007年度からは青山キャンパスに学術研究推進部を設置し、学内外の情報収集や外部資金獲得等も積極的に支援していく体制を整えます。

2006年度、青山学院大学社会連携機構が設置されました。その下には社会学連携研究センター、WTO研究センターが置かれ、さらに、2007年度には本学の使命である、あらゆるコミュニティや産業界において知的創造環境づくりを担う「人材」の育成のために、情報通信技術を効果的に活用し、世界に通用する研究・教育の質向上を実現する拠点として、ヒューマン・イノベーション研究センターを設置します。同機構は、青山スタンダード教育機構と並ぶ全学的な機構であり、今後はスタンダード教育機構が全学共通教育を担当し、社会連携機構は総合研究所とともに大学の研究支援を行います。同機構は、特に将来においては学部研究科、附置研究センターとなり得るものでもあり、あるいは事業家を目指す者を支援するインキュベータ組織としていくことも見据えています。

#### 5．全学プログラムの策定

学部及び研究科改革とともに、今後は大学の建学の精神を体現し、社会に貢献し得る人材の養成を目的とした、全学プログラムを立ち上げます。

ソーパター・プログラム

キリスト教教育も可能な一般科目担当教員の養成プログラム

マクレイ・プログラム

アジアの大学との交流及び留学生、外国の高校からの大学進学者受入れプログラム

スクーンメーカー・プログラム

女性の社会参画支援プログラム

これに加え、経済学部第二部、経営学部第二部の募集停止に対応し、第二部の本来の精神を第一部において継承することを目的に、就学意欲を有する優秀な勤労学生の総合的な就学支援プロジェクトとして本多プロジェクトを立ち上げます。



## 【女子短期大学】

青山学院女子短期大学は、建学の理念のもと、「自分のことばで語る力と思いやりのある心を育む教育」「130年をこえる女子教育の歴史と実績」「深く広く学べる教育環境」「学生の感性を刺激する都市型キャンパス」の四本の柱を特色とし、長い歴史を踏まえて、理想的な教育のあり方を追及しています。2007年度の事業計画は、下記のとおりです。

### ・教育研究の充実

#### 1．学生による授業評価の実施（150万円）

総合的なFD（Faculty Development）の一環として、2006年度（文部科学省平成17年度私立大学等経常費補助金「私立大学教育研究高度化推進特別補助」）実施に引続き、学生による授業評価を2007年度前期1回、後期1回実施します。

#### 2．2007年自己点検・評価報告書の刊行（91万円）

女子短期大学自己点検・評価規則第6条において、『自己点検・評価の結果は、5年ごとに「全学自己点検・評価報告書」を作成し、公表又は閲覧に供するものとする。』と定めています。前回「2002年自己点検・評価報告書」を刊行し公表していることから、「2007年自己点検・評価報告書」を刊行し公表します。

#### 3．教員研究業績管理システム導入（398万円）

教員研究業績管理システムを導入し、最新の教員の履歴・職歴・研究業績等を把握し、法令により義務化されている自己点検・評価及び認証評価は勿論のこと、認定専攻科への大学評価・学位授与機構の5年ごとの審査にも対応することとします。また、学内外への関係書類の提出及び正確できめ細かな情報発信の整備を進めます。

### ・教育環境の整備

#### 1．安全管理の強化

- 1) 防火防災設備の改修
- 2) シオン寮防犯設備の強化

#### 2．教室の整備

- 1) 多様化する授業形態に対応できる機器の整備
- 2) 学生並びに教員の安全確保のためのスリットドアへの変更

## 【高中部】

### 青山学院高中部の教育理念

本校は、青山学院教育方針にもとづいて、ひとりひとりの生徒の人格を育み、その自己実現を支える。また、与えられた自分の力を他者のためにも使い、隣人と共に生きることを喜び、平和な社会に貢献する人間の育成を目指す。

高等部並びに中等部は、2007年度の事業計画を下記のとおり策定しました。

## 【高等部】

### 1. 高等部校舎の建て替え

2006年11月、アカデミック・グランドデザインに基づいた青山キャンパス再開発の最優先事項の一つとして、高等部校舎の建て替えが決定しました。

2007年度は、高等部校舎の建て替えと中等部との連携によるグラウンド拡充プランを併せて「高等部校舎のリニューアルプラン」として策定し、年度中の校舎建築着工を目指します。

高等部校舎のリニューアルプラン策定にあたっては、高等部が現状抱える諸問題の打破、より安全な教育環境の実現、教育の質的向上等を図る必要があり、そのために、下記の3つの項目について、喫緊に対応していきます。

#### 安全・防犯対策に向けての取組みの強化

保護者・生徒・児童等から見たキャンパス及び校舎内における安心感の向上と、より安全な教育環境の維持に向けた仕組みを策定します。

#### 教育環境改善への取組み

適正な教育環境を維持するため、42人学級10クラスを目指し、教育の質的向上と財政面からの具体的検討を行い、実現に向けたプランを策定します。

#### 情報環境の整備と利便性の向上への取組み

現情報教室に替わる施設・設備の整備、教室・研究室等を含めたネットワークの整備、授業教材への活用と、生徒・教員間の利便性の向上を目指した仕組みを策定します。

### 2. 平和・人権問題への取組み

平和・人権委員会を新設し、キリスト教信仰に基づく学校にふさわしい平和問題や人権問題についての教育を深めていきます。

#### 大学・短大との連携「平和フォーラム」の運営

修学旅行での平和学習への資料提供

生徒会の平和問題の取組みへの対応

各種人権教育への対応

## 【中等部】

### 1．一貫教育の充実

初中高の一貫教育の充実ため、次の事柄を行います。

- 初中連絡会・中高連絡会の毎月開催
- 生徒の学習・生活状況の共通理解を深めるための合同研修会の充実
- 学習・進学記録の共有
- 授業・学校行事への各部教職員の相互参観及び参加
- 初中高養護教諭連絡会の定期開催
- 地震警戒宣言発令時の初中高としての対策検討

### 2．平和教育の充実

平和教育を充実させるため、2005 度より沖縄旅行を実施しています。沖縄の歴史と、沖縄の人々が現在抱えている基地問題を通して、平和とは何か、平和を実現するために何をなすべきかを考えるために、次の事柄を行います。

- 課題図書レポート
- 沖縄ノートの作成
- 平和講演会の開催
- 沖縄旅行の報告、感想発表・展示
- 平和教育委員会を中心に、平和教育のカリキュラム作成

### 3．教務システム構築

成績データ等を一元化し、中等部仕様の効率的でセキュリティを強化した安全な教務システムを構築し、部内の合理化、省力化を図ります。

### 4．アーバンコート環境整備計画（700 万円）

中等部アーバンコートは、高中グラウンド中等部校舎前にテニスコート 3 面分設置されています。安全面の観点や、事故の未然防止のため、コートの環境整備を行います。

## 【初等部】

「ひとりひとりとはかけがえのない存在として 命と賜物を神様から頂いています」  
青山学院が創立から 130 年余の間貫き通してきた建学の精神、  
それは「神を知り」「神を信じ」「神の愛に応える」人格の育成です。  
このキリスト教教育こそが、  
真に「人を人として育てる」教育であると考えています。  
これからの時代は、  
他者と「共に生きる」生き方がますます問われるでしょう。  
「感じる心」「考える力」「行動する活力」を大切にしたい教育が、  
青山学院初等部の教育です。

初等部は、2007 年度の事業計画を下記のとおり策定しました。

### 1．初等部創立 70 周年記念式典（546 万円）

初等部では 2007 年度に創立 70 周年を迎えるにあたり、記念式典及び催し物を計画しています。11 月 16 日（金）に学内・学外関係者をご招待し、礼拝を中心とした式典及び新校舎完成お披露目、お茶の会等を企画中です。また、17 日（土）には、在校生・卒業生等を対象に模擬店、イベントを中心としたホームカミングな会を催す予定です。現在、実行委員会及びくすのき会（卒業生）を中心に企画検討しています。

### 2．収容定員増計画

2006 年度新校舎完成に伴い、各学年を 3 クラスから 4 クラス制とし、少人数教育の充実を図り、それと並行して各学年 8 名の収容定員増申請を進めてきました。諸事情により 2007 年度からの実施はとりやめになりましたが、2007 年度も、昨年度に引き続き検討事項として取り上げていきます。

## 【幼稚園】

### 幼稚園の教育（保育）理念

青山学院幼稚園は、青山学院教育方針に基づき、豊かな自然の中でいろいろな人と共に生活することにより、神様の恵みと守りを感じ、祈りと感謝と喜びの生活が実現出来る保育を目指すものである。

幼稚園は、2007年度の事業計画を下記のとおり策定しました。

#### 1．防災備品の充実（20万円）

2007年度も引き続き、大地震災害に備え、園児及び保護者が園舎内に留まっている最中に地震が発生した場合にも対応できる防災備品の充実を図ります。特に食料、水、医薬品や体温調整用の毛布など、生命維持を目的とした備品を中心に充実させることを目標としています。

さらに、その配置やメンテナンスを工夫し、今まで以上に安全な環境・状況を確保していく予定です。

#### 2．トイレの改修（30万円）

園児が安心して幼稚園での時間を過ごすには、まず各自の生活様式と違和感のない環境を整えることが必須です。近年の生活様式の変化に伴って、これまで備えてきた和式トイレの園児の使用頻度が少なく、敬遠されることが多くなってきました。そのため、園児が安心して園生活を送ることができるよう、これまで幼稚園で積み重ねてきた安全安心の工夫を活かして配置も工夫し、和式トイレを洋式に改修していきます。年少組のトイレ改修から着手する予定です。

#### 3．冷暖房機取替（80万円）

近年の空調機事故をふまえ、安全な噴出口を備え、メンテナンスがしやすく、地球環境にやさしい空調機を設置します。